

「Dysphagia—Diagnosis and Treatment」

edited by Gelfand DW, Richter JE

群馬大学講師

関 口 利 和

dysphagia という症状を表題にした食道疾患の専門書が刊行された。食道は狭い管腔の臓器なので、小さな障害が発生しても直ちに嚥下障害が発症する。よって本書は食道疾患の病態と診断、治療に関する専門書と理解していただいてよい。

編者の Gelfand は、Wake Forest 大学の放射線科の教授であり、X 線造影による食道疾患の診断が専門である。radiologic evaluation の項では、鮮明な X 線写真が的確に病変を捉えており、嚥下困難を主訴とする小食道癌から食道炎までの器質的な食道疾患はもとより、食道アカラシア、diffuse esophageal spasms

などの運動機能障害の X 線像も豊富に収録されている。

もう 1 人の編者の Richter は同じ大学の若手の内科医であるが、食道運動の研究者であり、逆流性食道炎の発症要因の研究、診断治療について精力的に活躍している。本書では食道内圧や gastroesophageal reflux disease の項を執筆している。

その他の主な執筆者には、食道運動障害の第 1 人者 Castell や外科治療の DeMeester らもかかわっている。

dysphagia の分類や発症メカニズムの解説から始まり、咽頭と食道の解剖、生理に触れているが、本書は

やはり dysphagia という症状をタイトルにするだけあって、臨床を中心にした内容の書籍である。診断には X 線検査、内圧検査、内視鏡検査、シンチスキャンの検査法から所見の解説まで、かなり専門的に詳細に記述している。

各論に入っても、咽頭や食道入口部の疾患、食道癌や良性狭窄に対する強制拡張術や prosthesis も詳述されている。逆流性食道炎に関しては最近の知見を豊富に取り入れてあり、内容は充実している。逆流性食道炎の薬物治療はプロトンポンプ阻害剤やシュクラルフェイトの成績まで言及している。その他、腐食性食道炎、食道感染症、外傷なども詳細に記述されている。

端的に申せば、本書の特徴は、食道疾患に関する最新の知見を盛り込み、それを要領よく簡潔に記述されているので、食道疾患の専門家の座右の書となりうるものと確信している。

382 pp. with figs 1989 ¥14,000

Igaku-Shoin Medical Publishers, Inc., New York／医学書院洋書部